第 34 回　医学教育指導者フォーラム　開催要綱

趣　　旨　　大学医学部における医学教育の改善並びに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換並びに討論を行う。

主　　題　　**OSCE 再訪**

主　　催　　公益財団法人 医学教育振興財団

期　　日　　令和 5 年 7 月 25 日（火）

開催方式　　対面・オンライン（Zoom Webinar）

会　　場　　東京慈恵会医科大学 大学 1 号館講堂（3 階）　105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

参 加 者　　国公私立医科大学学長、医学部長、医学部附属病院長及び教務委員長等

日　程

11:45　受　付
進行）医学教育振興財団事務局長　**和氣　太司**

12:15　開　会　〈開会挨拶〉　医学教育振興財団理事長　**小川　秀興**
〈挨　　拶〉　文部科学省高等教育局医学教育課企画官　**堀岡　伸彦**
12:20　〈趣旨説明〉　名古屋大学総合医学教育センター長・教授　**錦織　宏**

12:35　講演 1　**Considerations for a National Examination of Clinical Skills: the US Experience**
President and CEO, NBME (National Board of Medical Examiners), USA
Peter J Katsufrakis
司会）埼玉医科大学学長　**別所　正美**

13:25　〈質疑応答〉

13:50　講演 2　**OSCEs in the 21st Century**
Director, HPAC (Health Professional Assessment Consultancy), Singapore
Katharine Boursicot
司会）日本医学教育学会理事長/静岡県立総合病院院長　**小西　靖彦**

14:40　〈質疑応答〉

15:05　休憩

15:15　総合討論　司会）医学教育振興財団常務理事　**北村　聖**
話題提供　日本文化を考慮した学修者評価
自治医科大学医学教育センター副センター長・教授　**松山　泰**
話題提供　日本における OSCE の歴史的変遷
愛知医科大学医学教育センター特命教育教授　**伴　信太郎**
話題提供　わが国における臨床実習前 OSCE の到達基準
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 到達基準検討委員長
千葉大学大学院医学研究院医学教育学教授　**伊藤　彰一**

16:00　討論　パネリスト：**Peter J Katsufrakis　Katharine Boursicot　松山泰　伴信太郎　伊藤彰一**

16:55　閉　会　〈閉会挨拶〉　医学教育振興財団常務理事　**跡見　裕**

17:00　終　了

OSCE 再訪 （趣旨と背景）

名古屋大学総合医学教育センター
錦織宏

欧州医学教育学会の事務局長を長年務められた Ronald Harden 教授が 1975 年に BMJ（British Medical Journal）誌上において OSCE（Objective Structured Clinical Examination）を紹介してから、半世紀近くが経とうとしている。英国でそれまで行われていた Long Case という実技試験の客観性（もしくは信頼性）の乏しさを乗り越える方法として開発された OSCE は、その後日本も含めた多くの国で、模擬的な状況を設定して臨床能力（パフォーマンス）を評価する実技試験の代名詞として定着した。これまで複数の国において医師国家試験にOSCE が導入されている他、医学教育学領域では、OSCE の妥当性・信頼性・実現可能性などに関する研究も進み、今日では OSCEology という言葉が使われるようにまでなっている。

一方で、米国では新型コロナウイルス感染症の広がりを契機に、2004 年から行われていた医師国家試験における実技試験である USMLE Step 2 CS（United States Medical Licensing Examination Step 2 Clinical Skills）が 2021 年に廃止となった。高額な受験料は一因とされているが、2000 年代以降 Workplace-Based Assessment（診療現場における評価）に関する研究が進んだことも背景にはある。OSCE の実施に多大な教育資源を必要とすることもあり、医師に求められる臨床能力の評価法に関する議論は近年、新しい展開を見せている。

そのような中、我が国では 2021 年に医師法が改正され、共用試験に合格した医学生は、臨床実習において医師の指導監督の下、医業を行うことができることとなった。この共用試験の公的化に伴い、臨床実習前 OSCE の実施方法も一部改定され、また臨床実習後 OSCE のあり方についての検討も進んでいる。このような現状を踏まえて、臨床能力評価における OSCE の位置づけについて今日的な文脈で討議する場を持つことが、本年のフォーラムの目的である。

過去 2 年間多くの参加者から好評をいただいたこともあり、本年もより多くの方にオンラインで参加いただけるよう、ハイブリッド開催の形とした。海外演者による講演として、まず米国 NBME（National Board of Medical Examiners）の President である Katsufrakis 教授に、米国で USMLE Step2 CS が廃止に至った経緯や、その後の議論について紹介いただく。またシンガポールを拠点に医療者教育における学修者評価のコンサルティングを展開する産婦人科医の Boursicot 教授には、昨年、仏国のリヨンで行われたオタワカンファランス（医療者教育の学修者評価に関する国際学会）の内容を中心に、OSCE や Workplace-Based Assessment に関する最先端の議論を紹介いただく。

国内演者による話題提供では、まず自治医科大学の松山泰教授に日本文化を考慮した学修者評価についてお話しいただき、その後、我が国において OSCE の導入をリードしてこられた愛知医科大学の伴信太郎特命教育教授に日本における OSCE の歴史的変遷をまとめていただく。そして最後に、医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 到達基準検討委員長の立場から、千葉大学の伊藤彰一教授に公的化後の共用試験医学系 OSCE による臨床能力評価についてお話しいただいて、全体討論に繋げる。

約 50 年の時を経て OSCE はどのような変遷を重ねてきたのか？臨床能力評価における OSCE と Workplace-Based Assessment はどのように役割を分担していくのか？Virtual Reality の技術は OSCE をどのように変えるのか？OSCE の実現可能性（Feasibility）についてこれまでに何がわかっているのか？OSCE にまつわる問いはまだまだ尽きないが、時間の許す限りの活発な討議ができることを期待している。